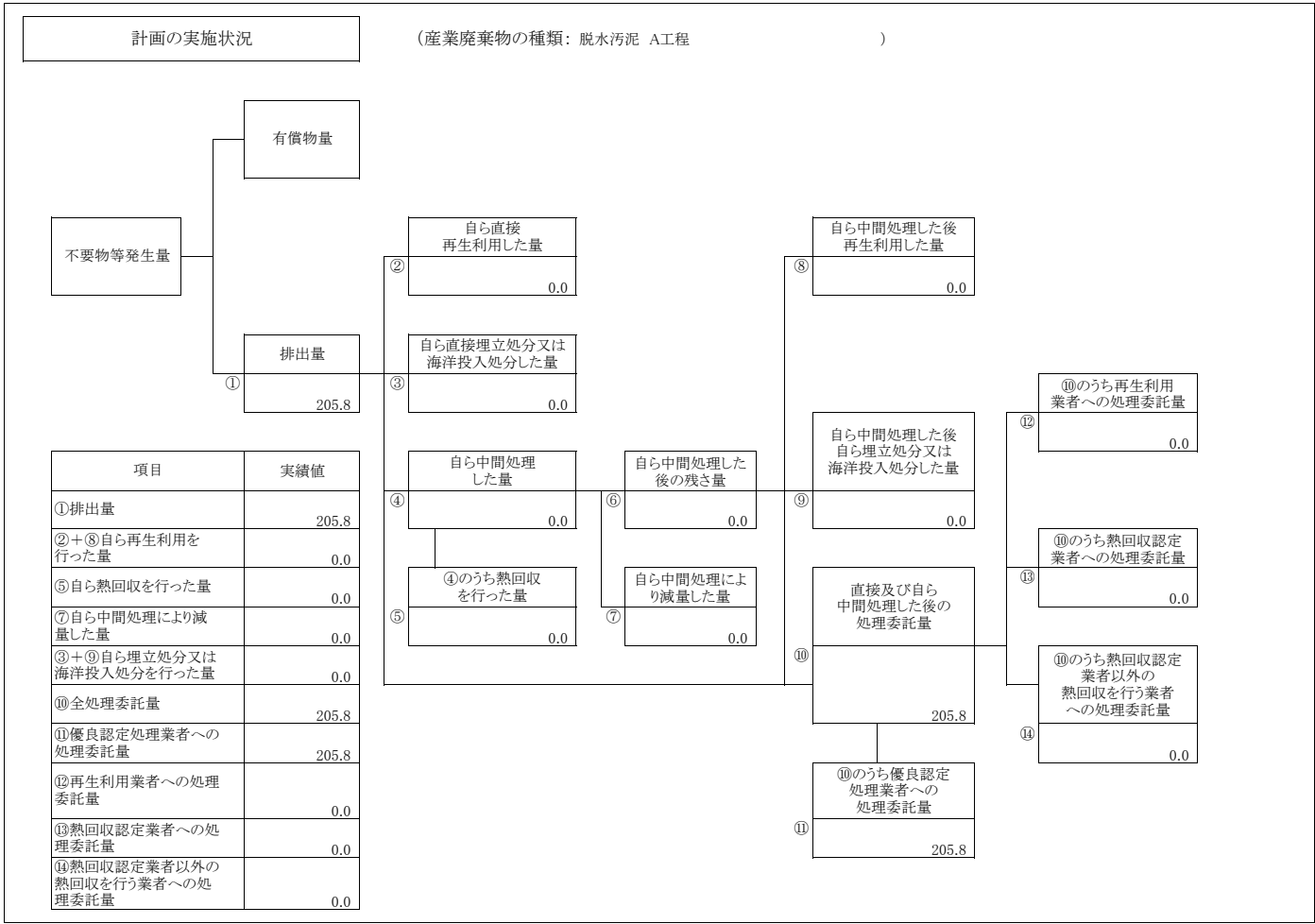
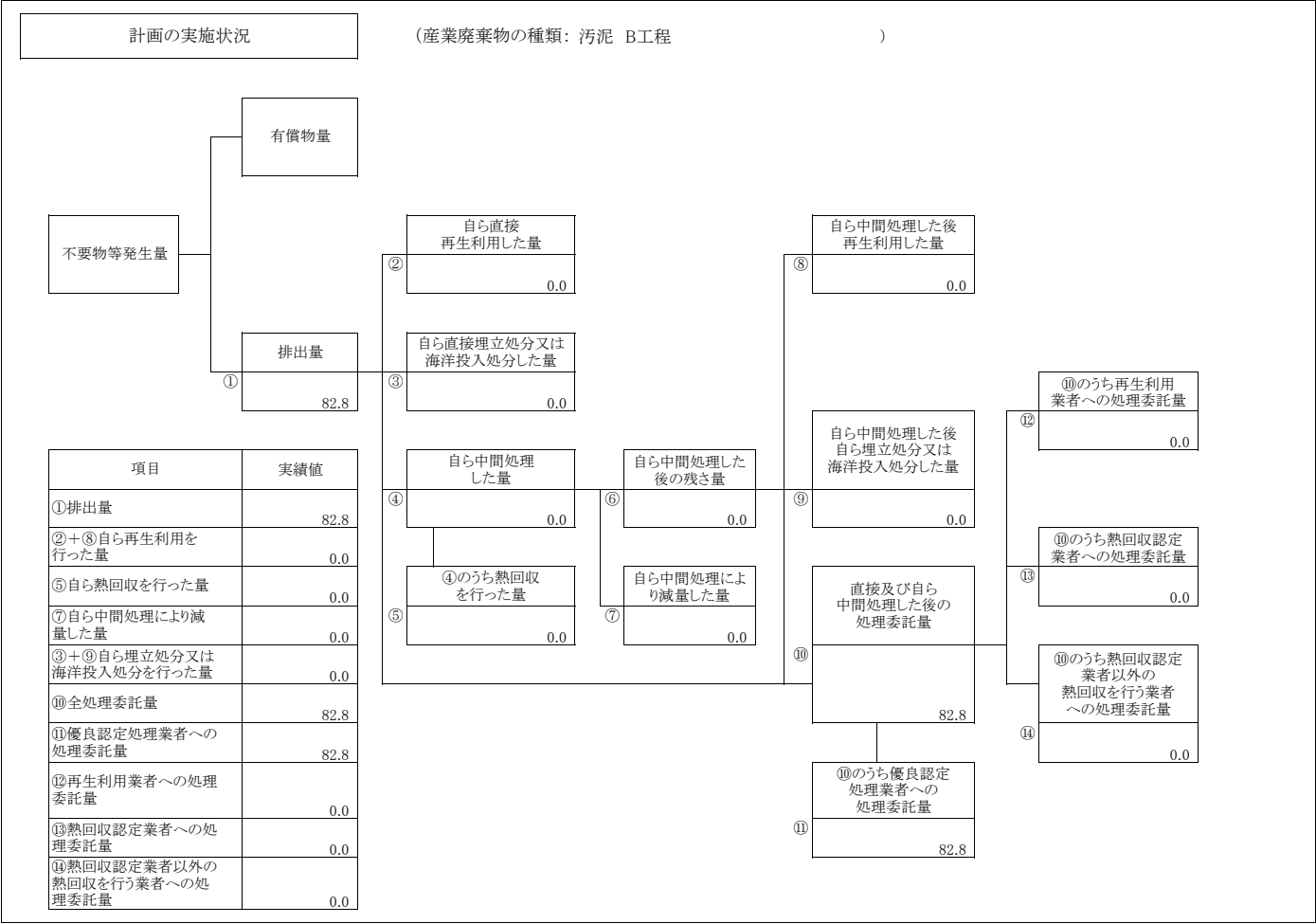
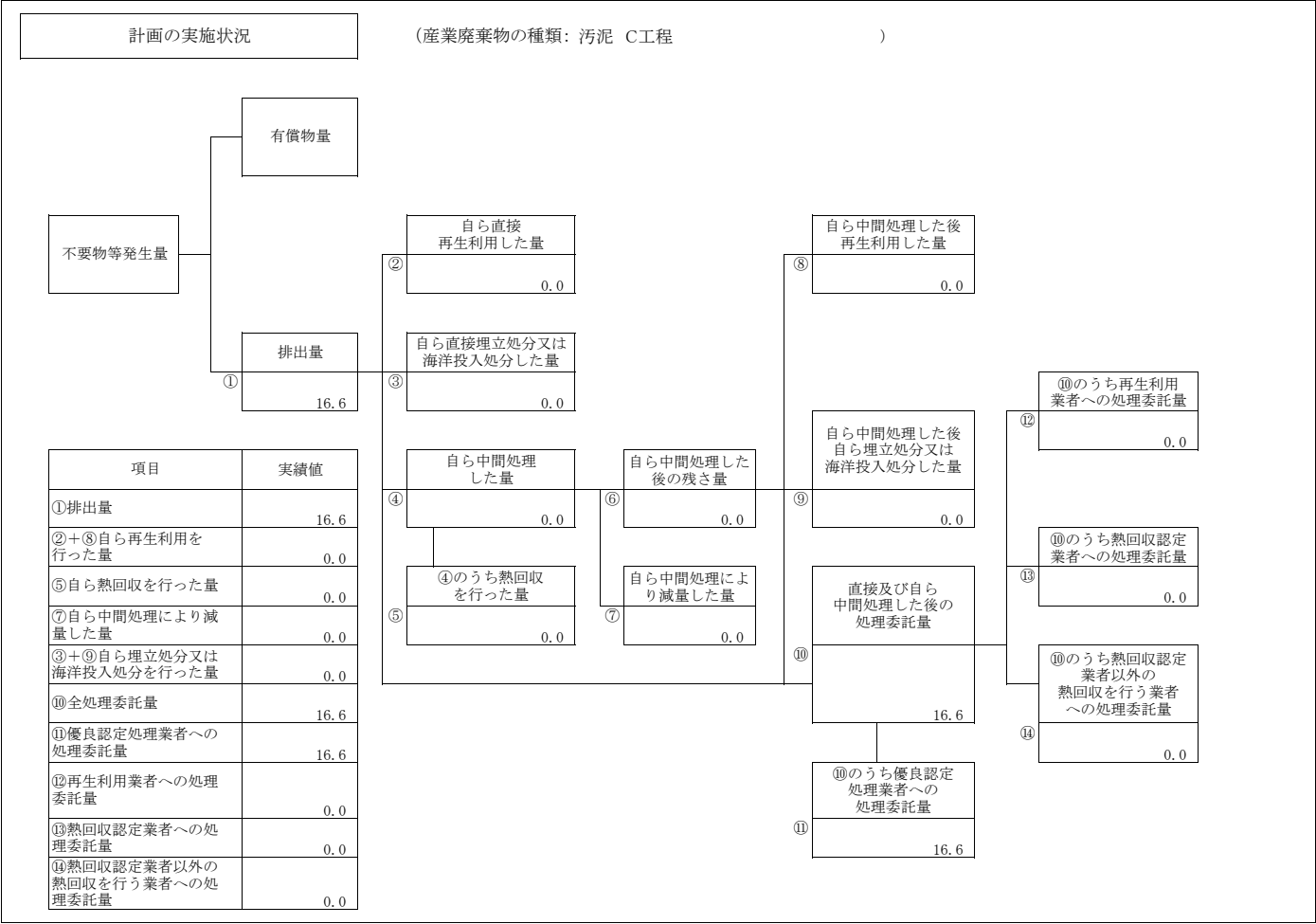
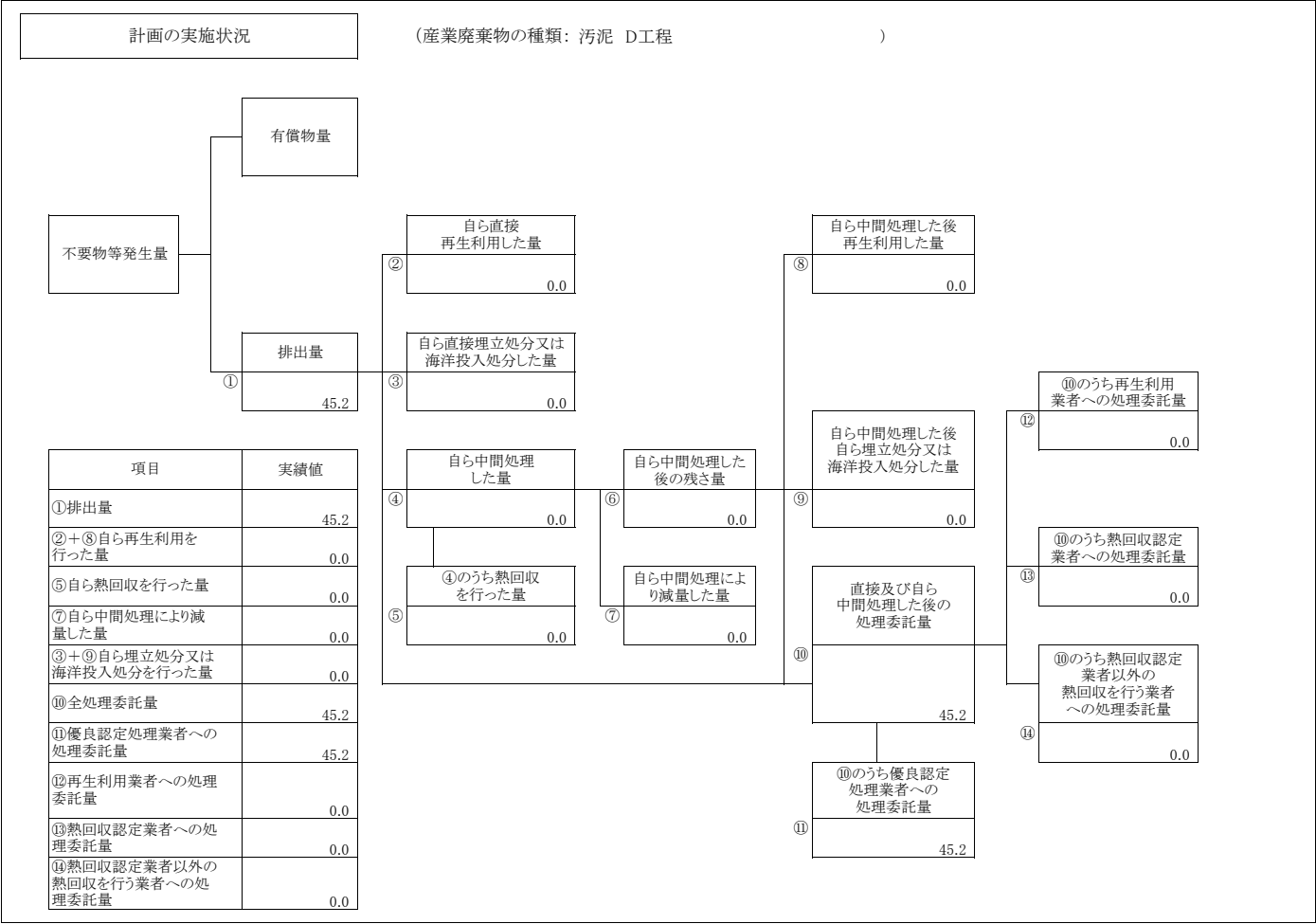


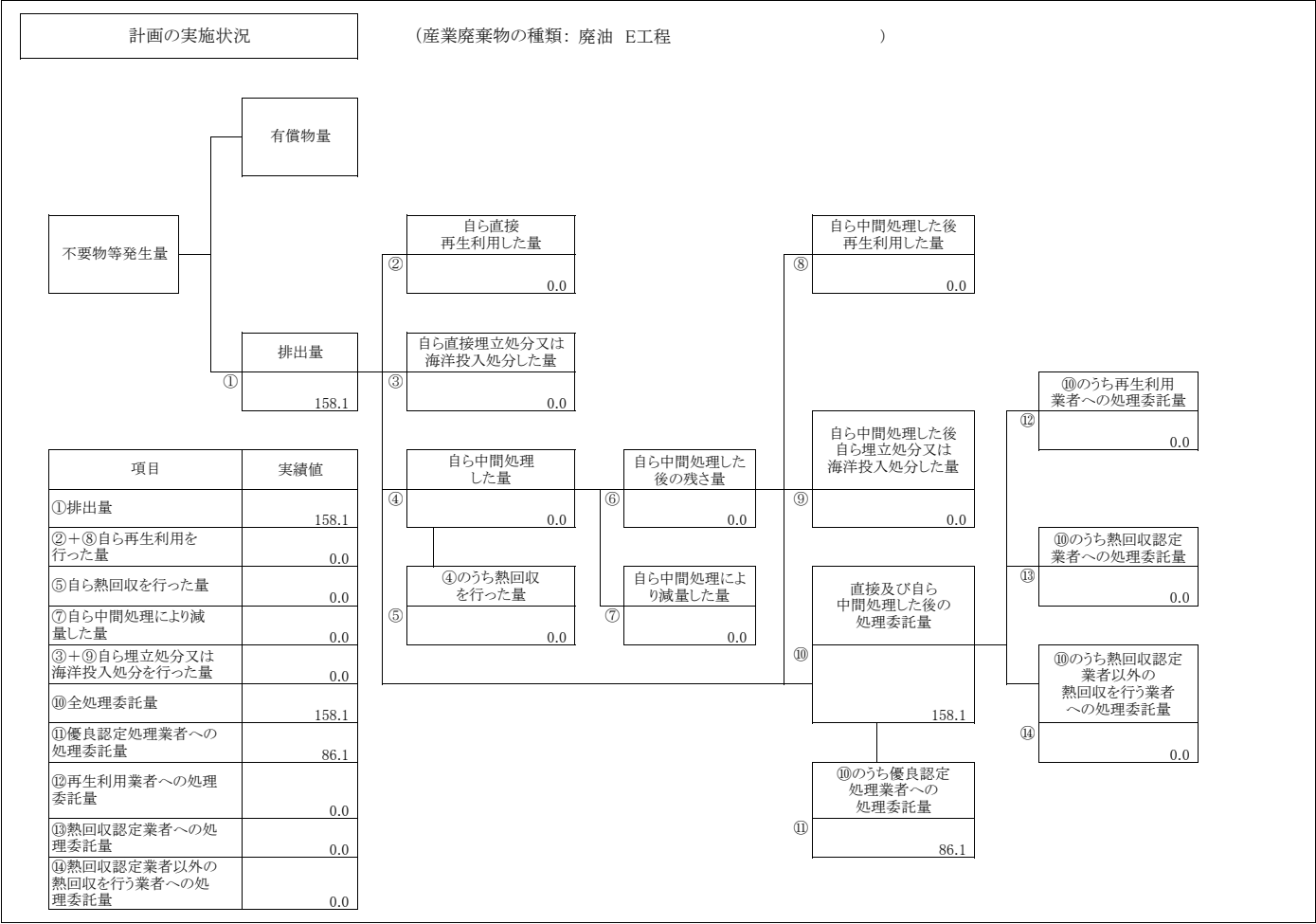
産業廃棄物処理計画実施状況報告書			
2024年6月11日			
堺市長 殿			
提出者 住 所 堺市堺区老松町3丁77番地 氏 名 株式会社シマノ 島野 泰三 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 072-223-3210			
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、2023 年度の産業廃棄物 処理計画の実施状況を報告します。			
事業場の名称	株式会社シマノ		
事業場の所在地	堺市堺区老松町3丁77番地		
事業の種類	31.輸送用機械器具製造業		
産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間	2023年4月1日～2024年3月31日		
産業廃棄物処理計画における目標値			
項目	目標値	項目	目標値
排 出 量	1,077t	全 処 理 委 託 量	1,077t
自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	1,077t
自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t
自ら中間処理により減量す る 産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t
※事務処理欄			

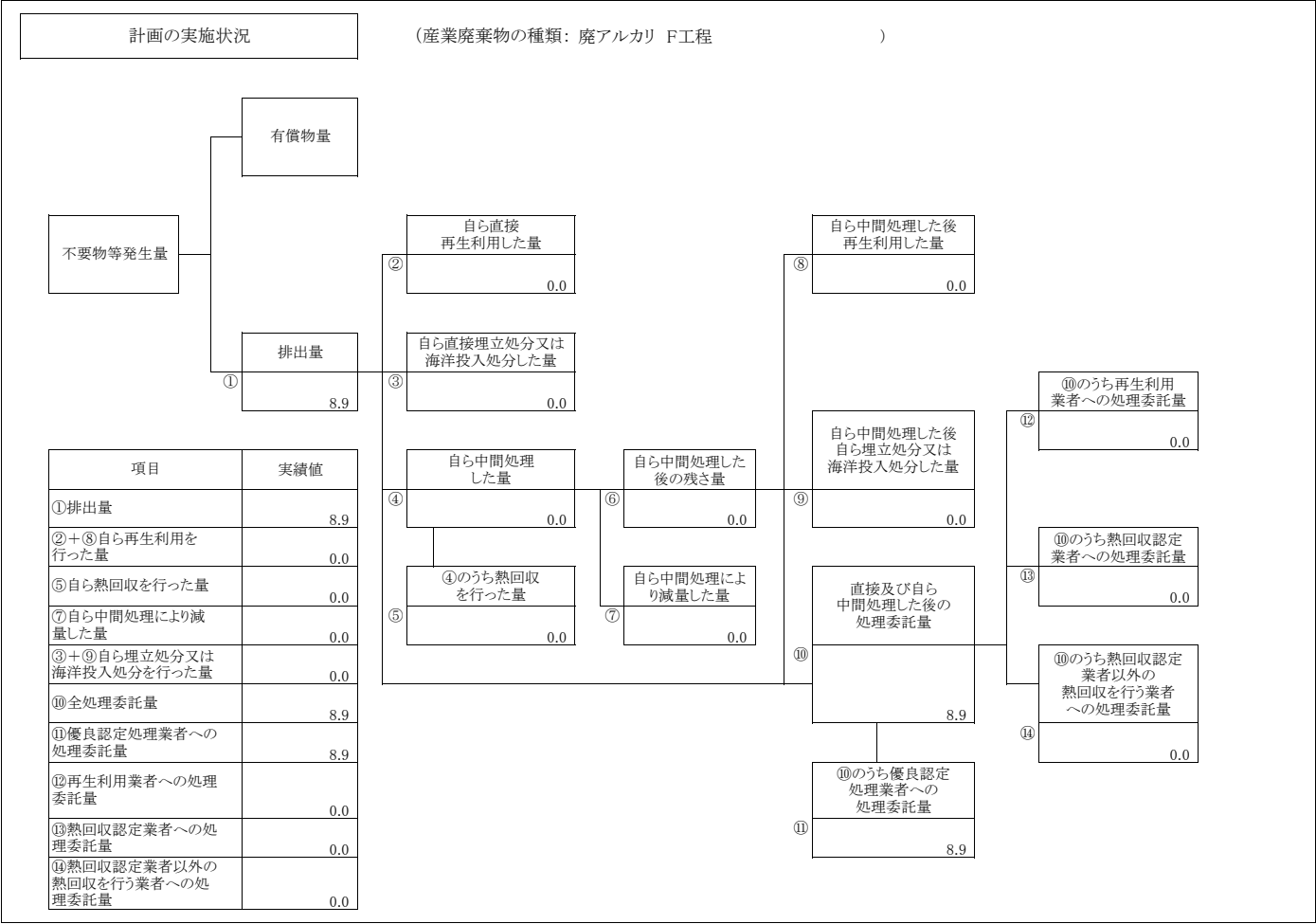


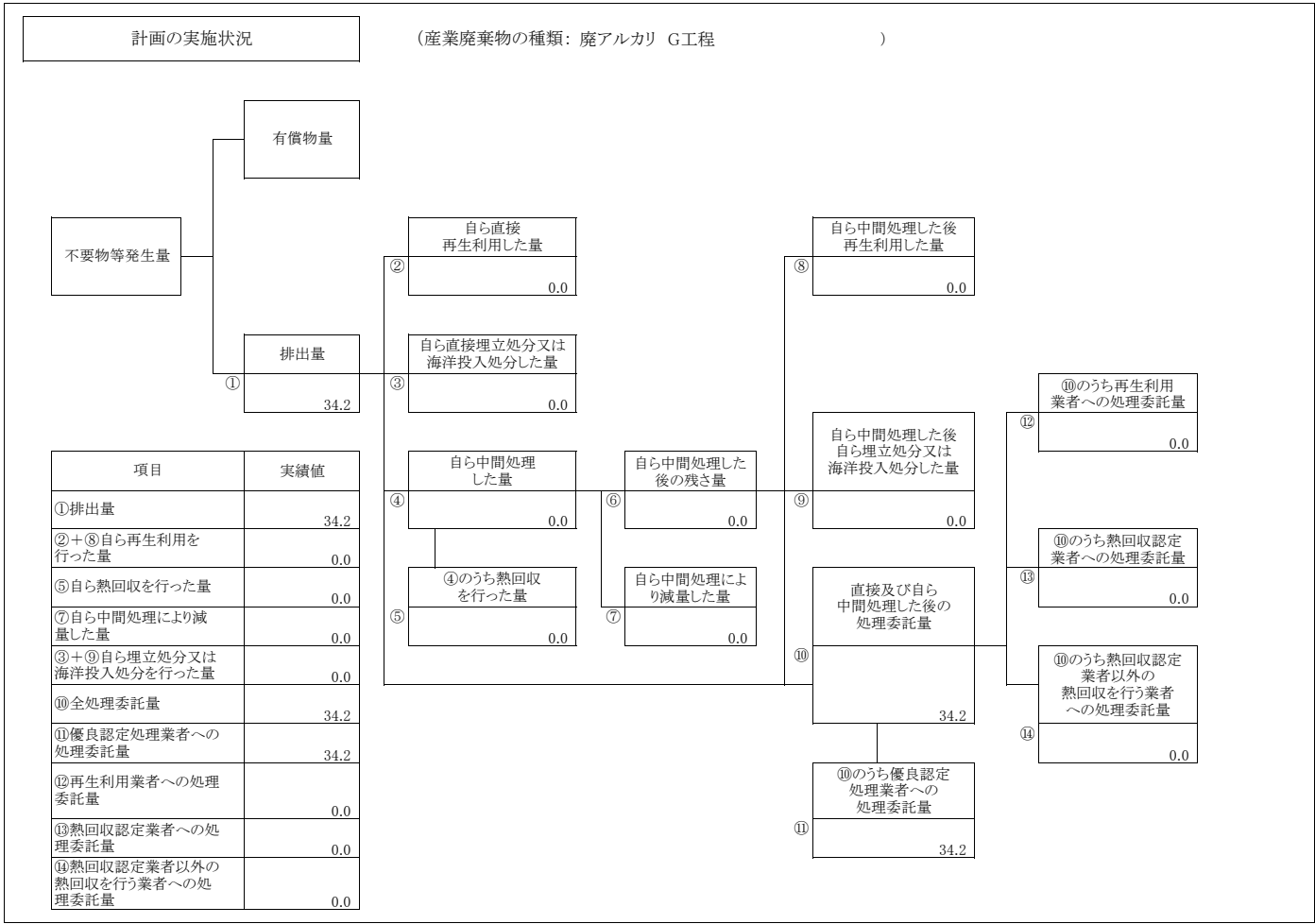


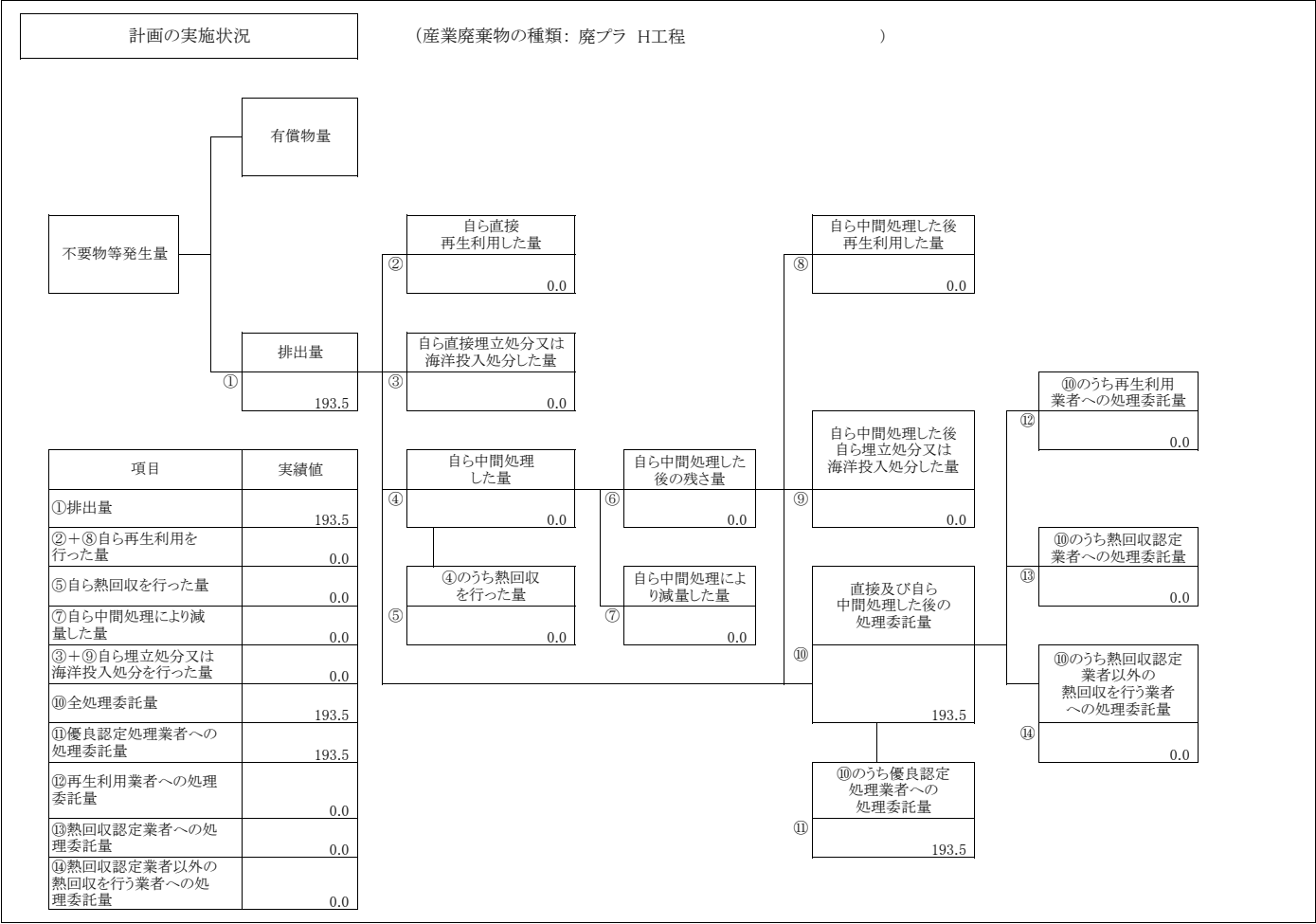


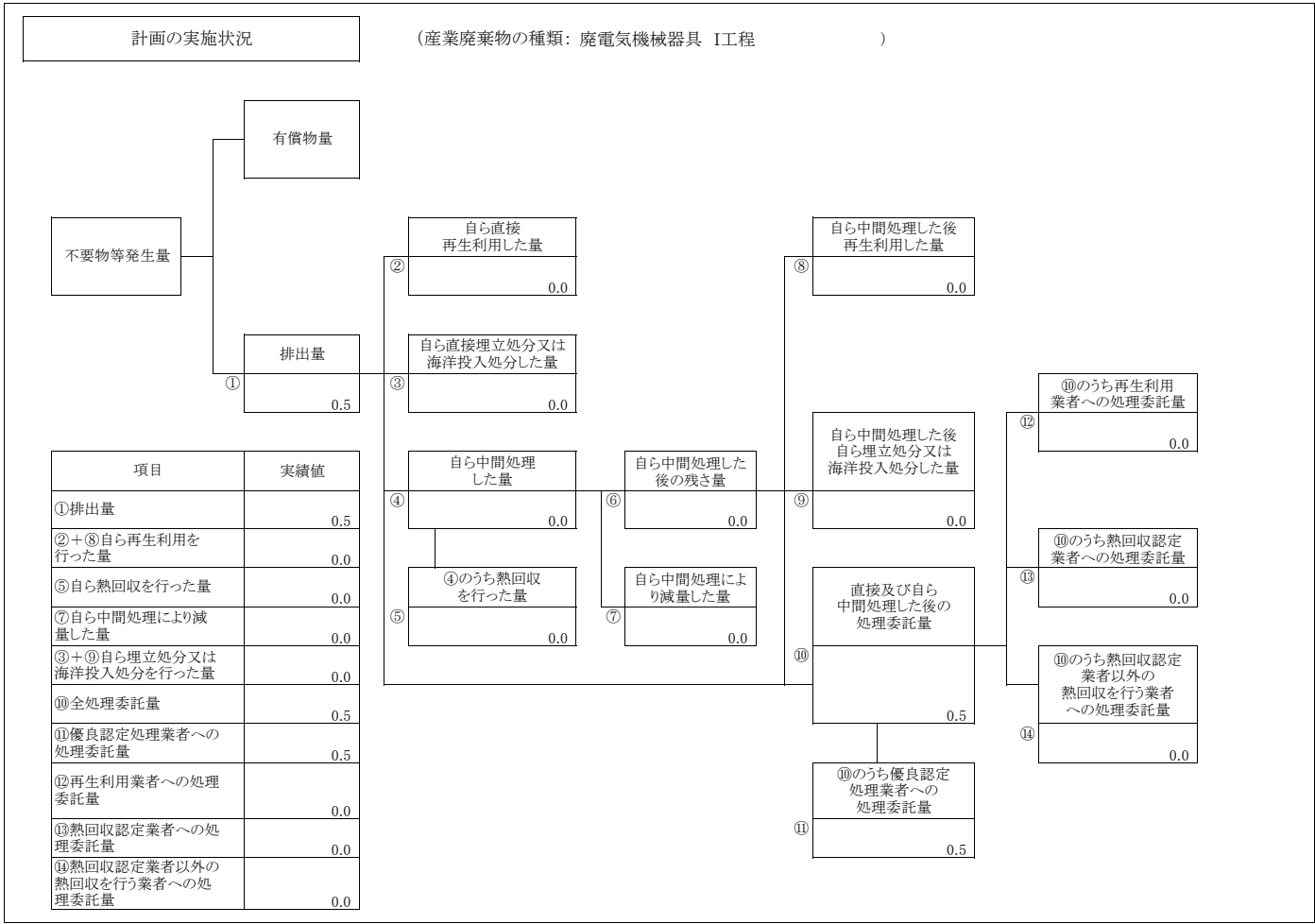


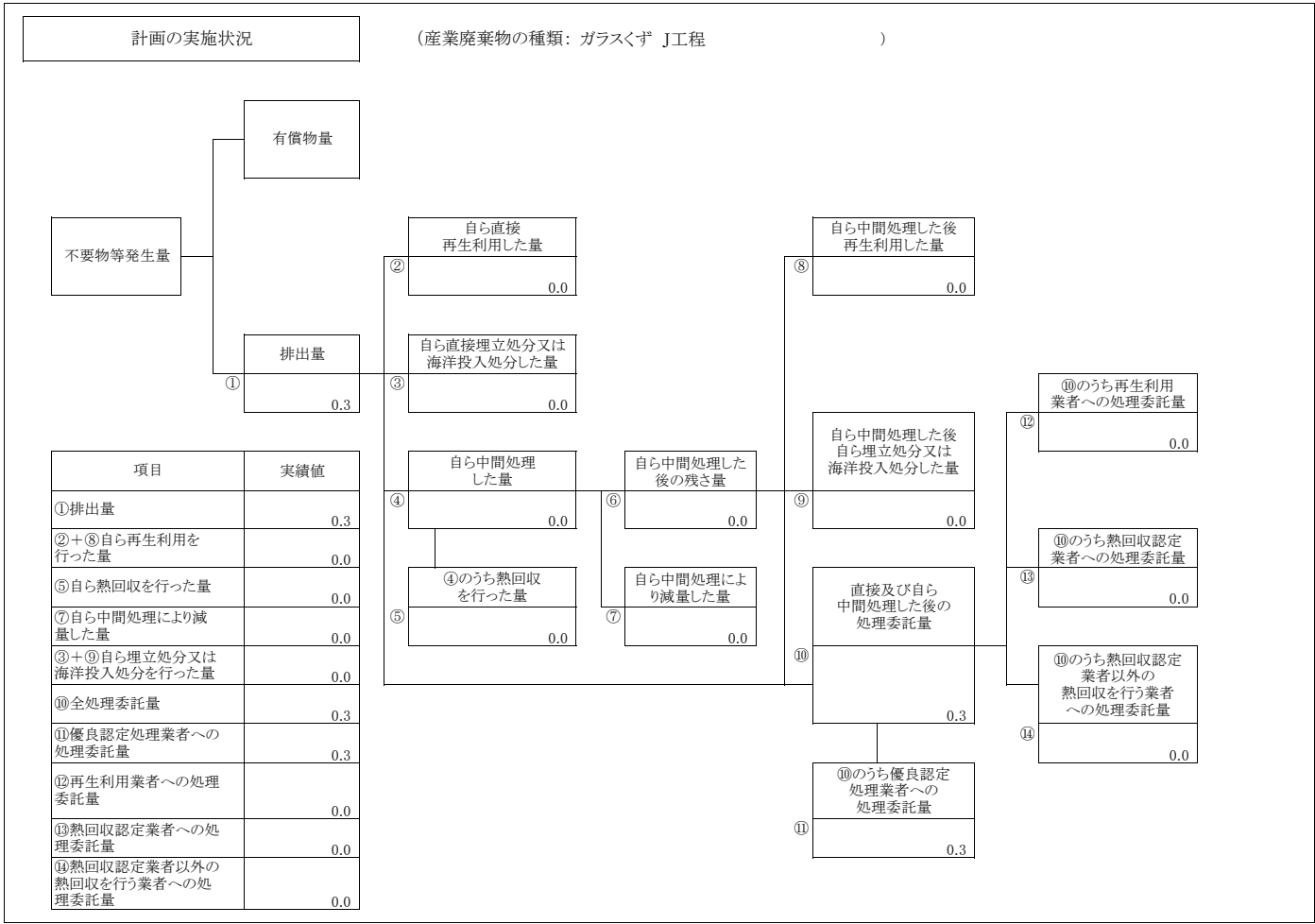


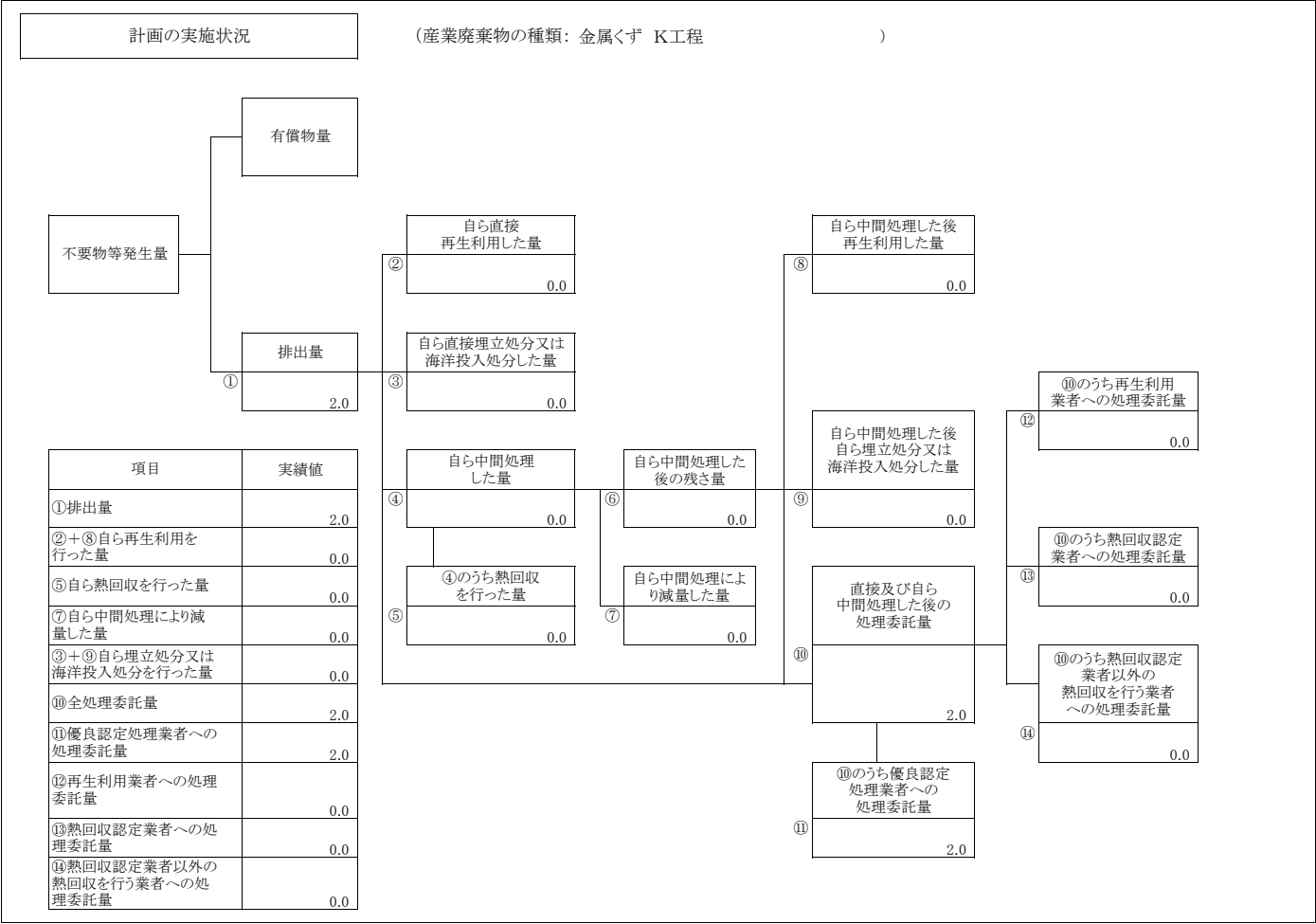


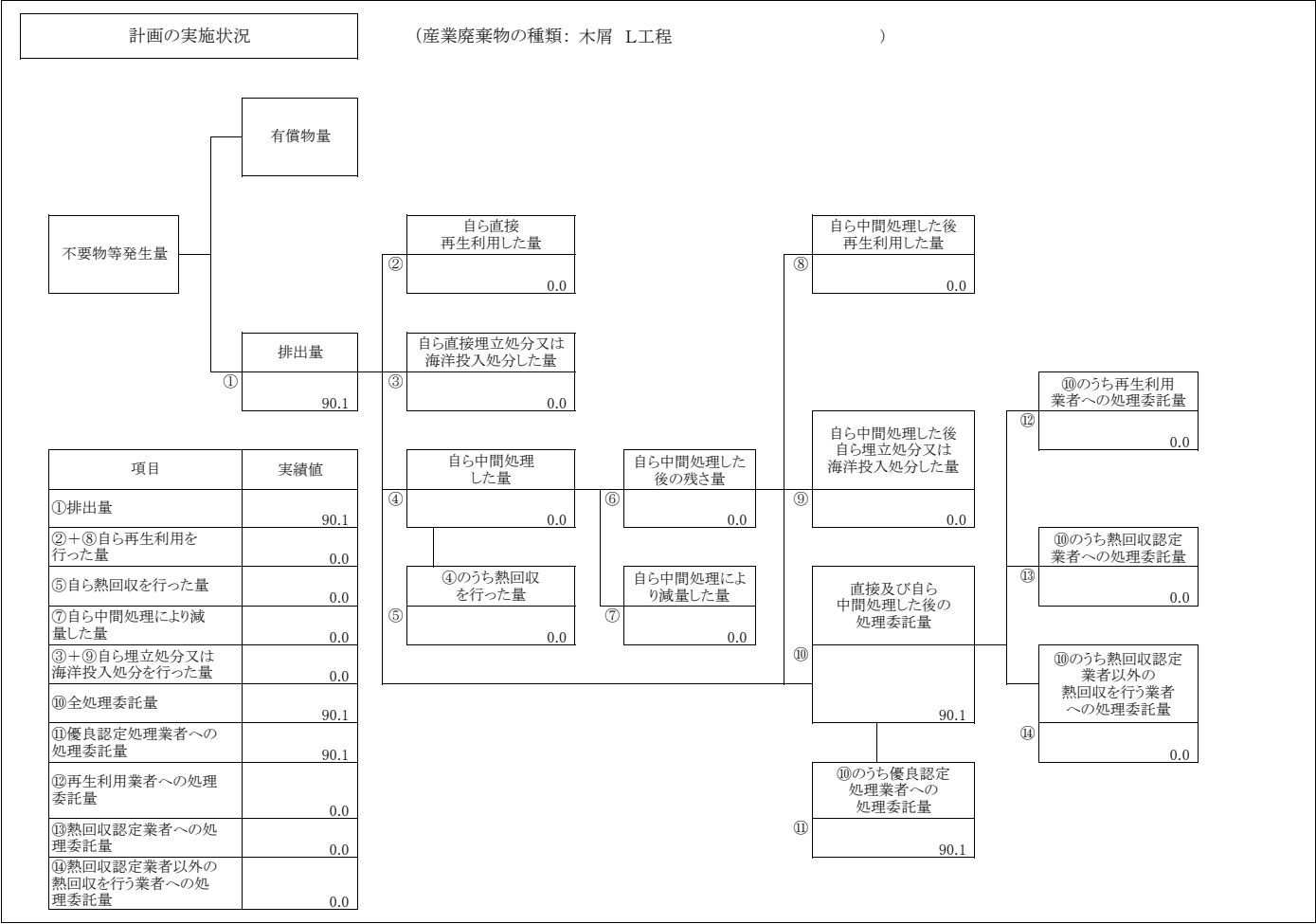


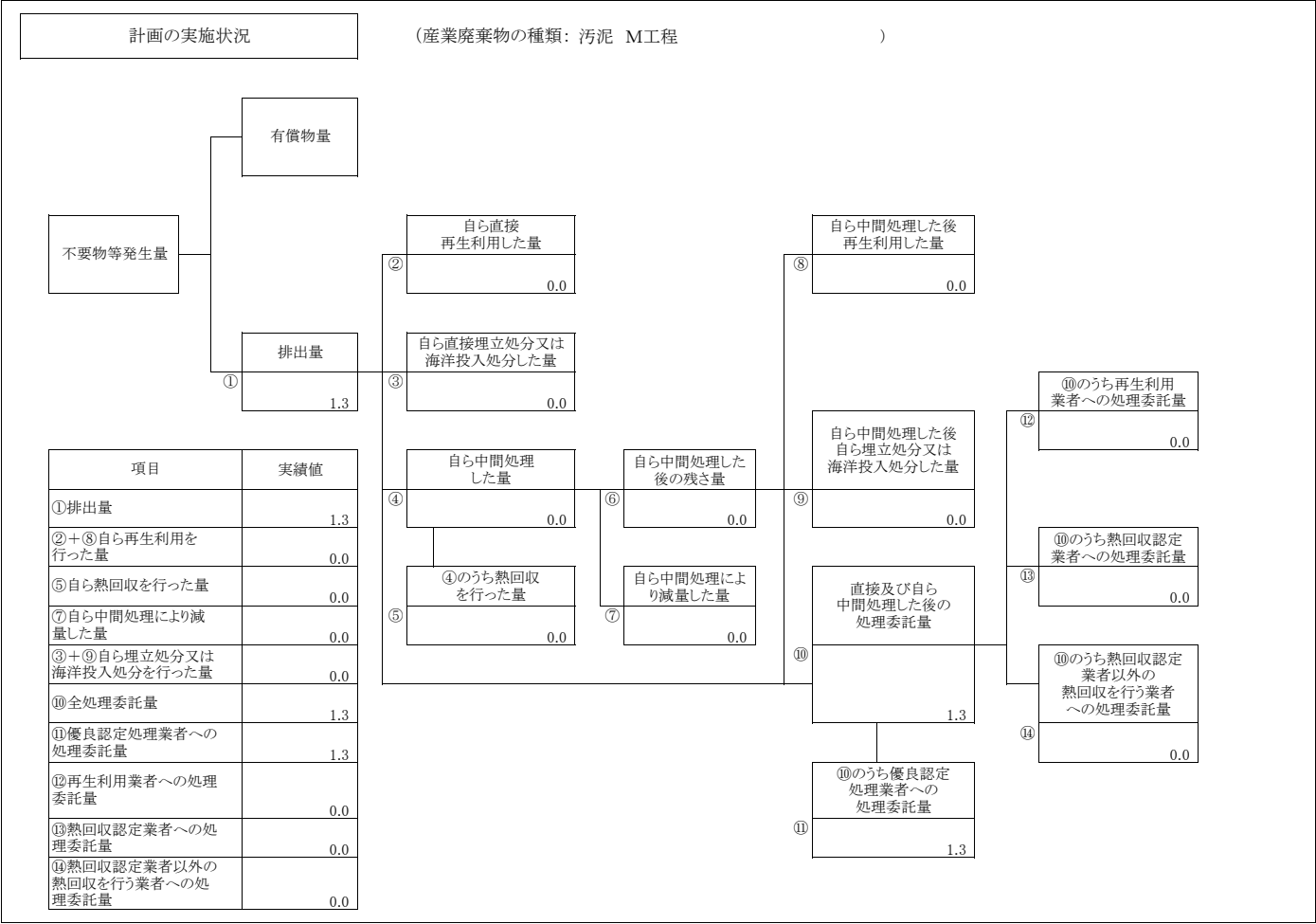


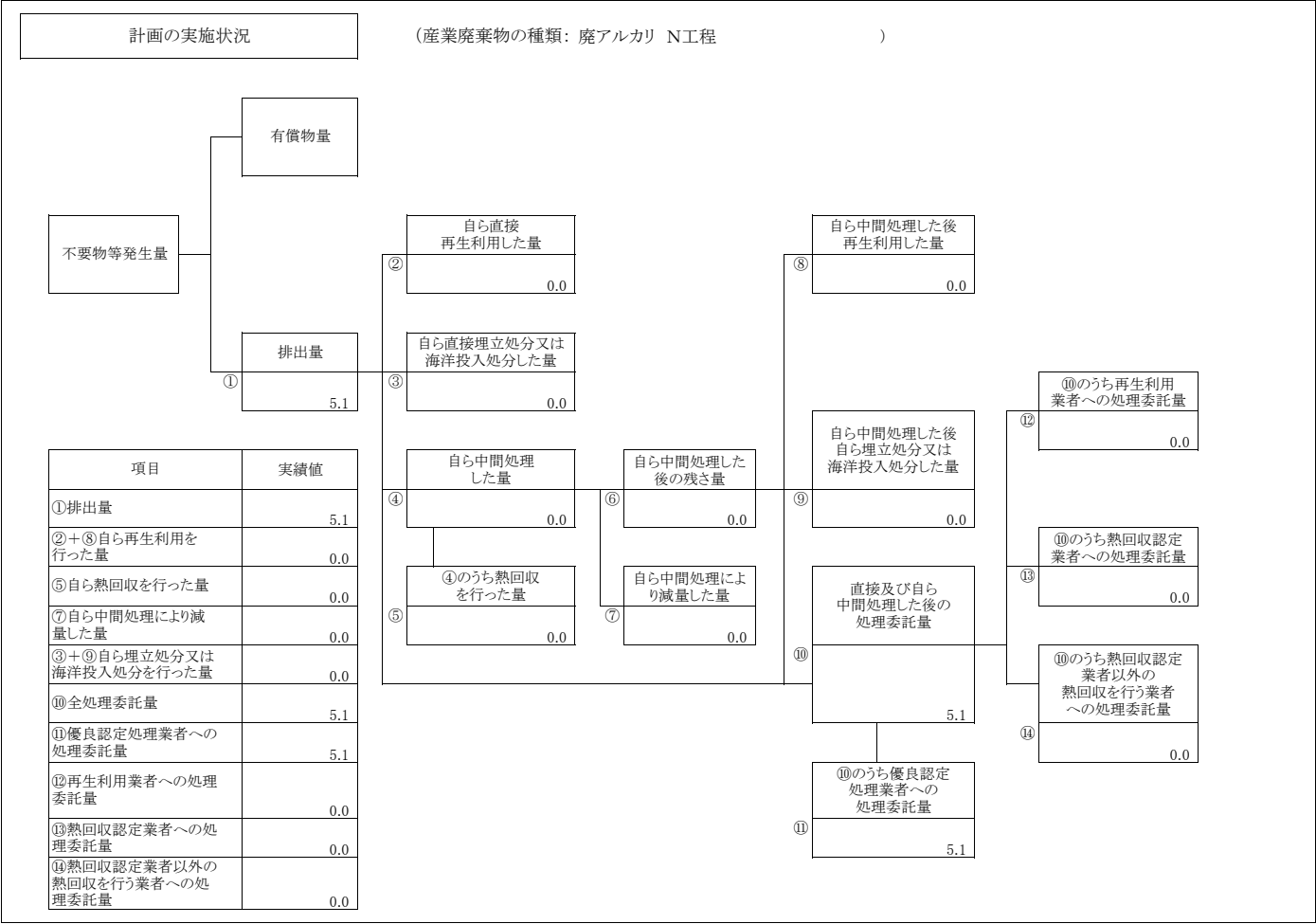


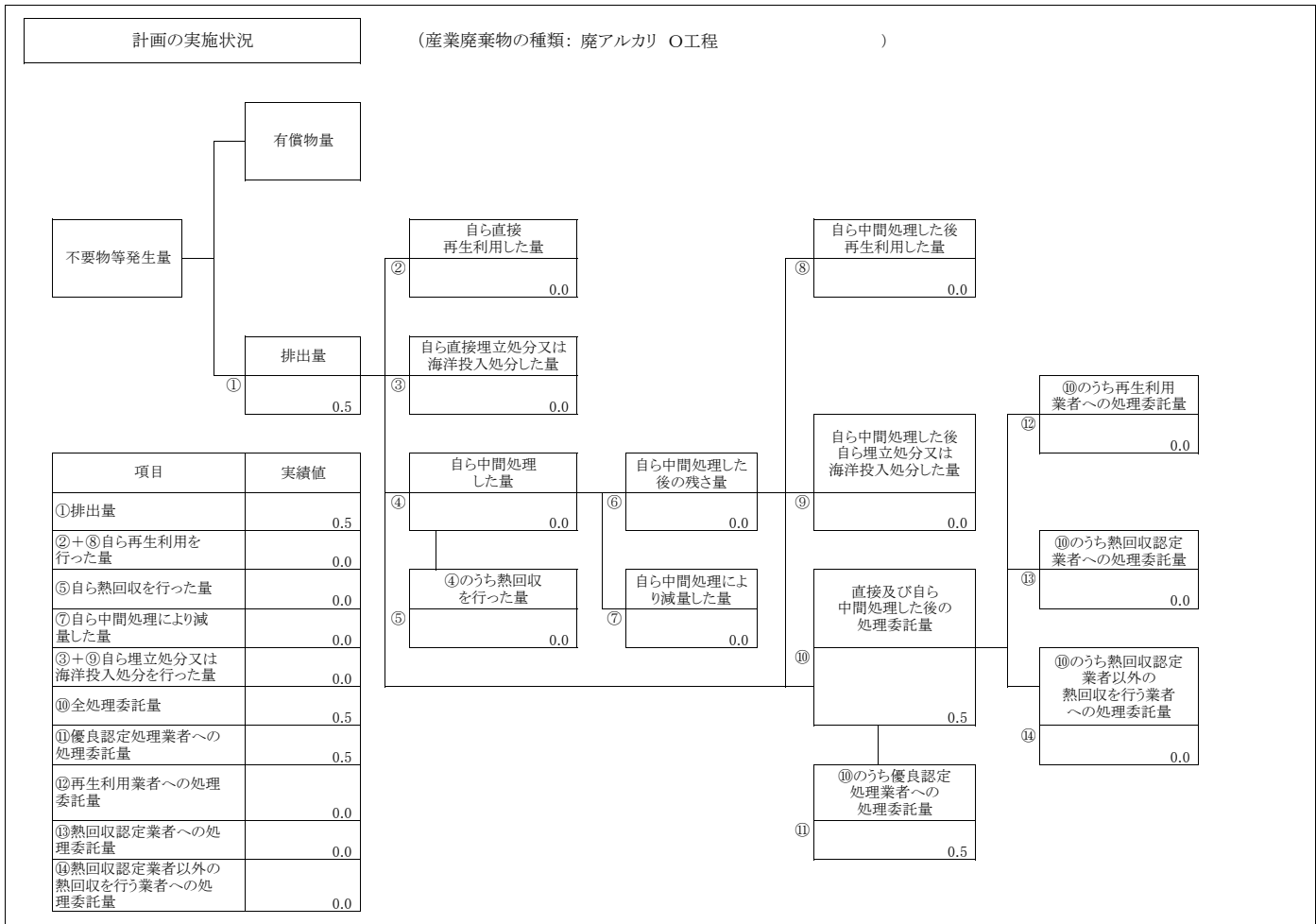


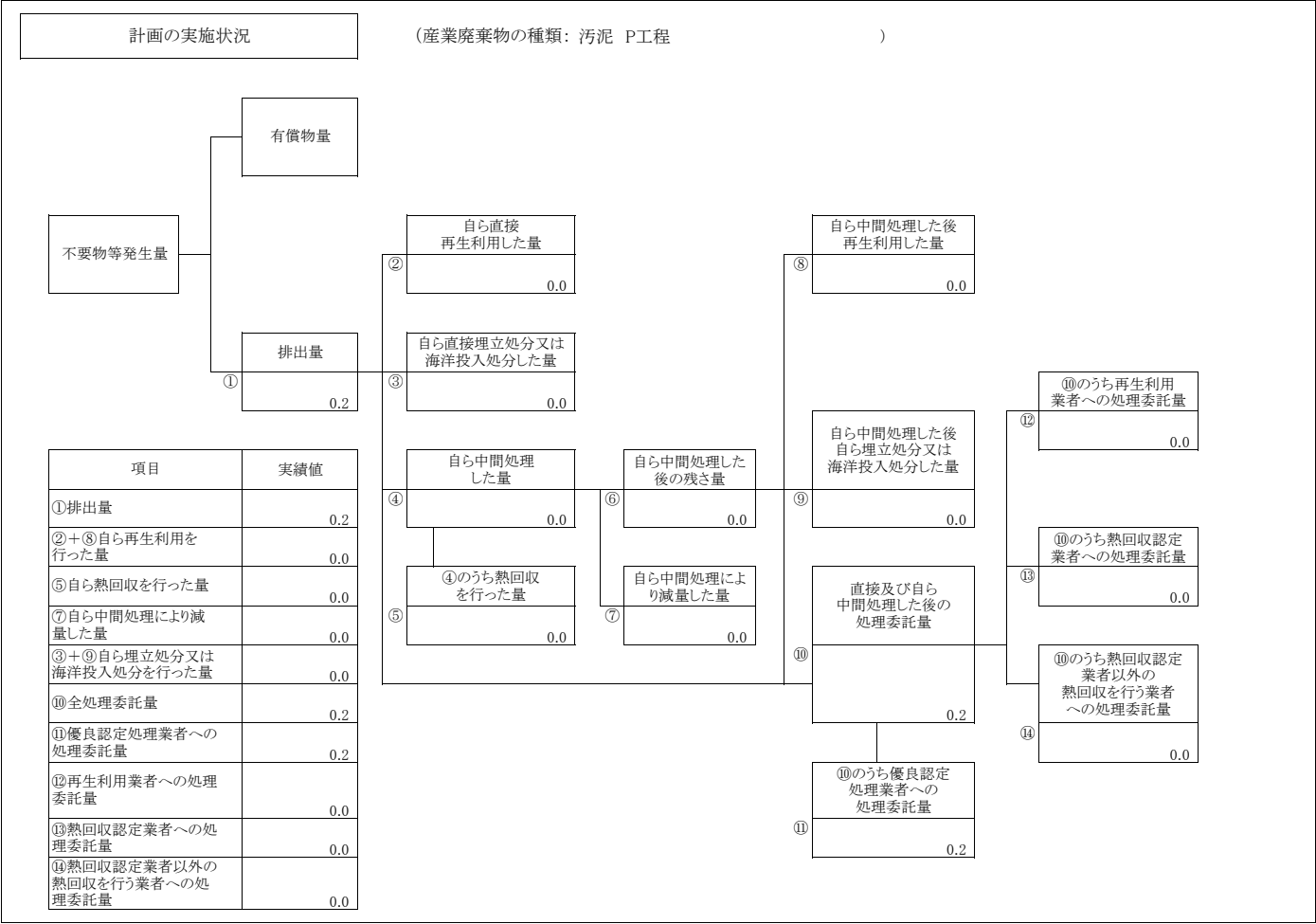


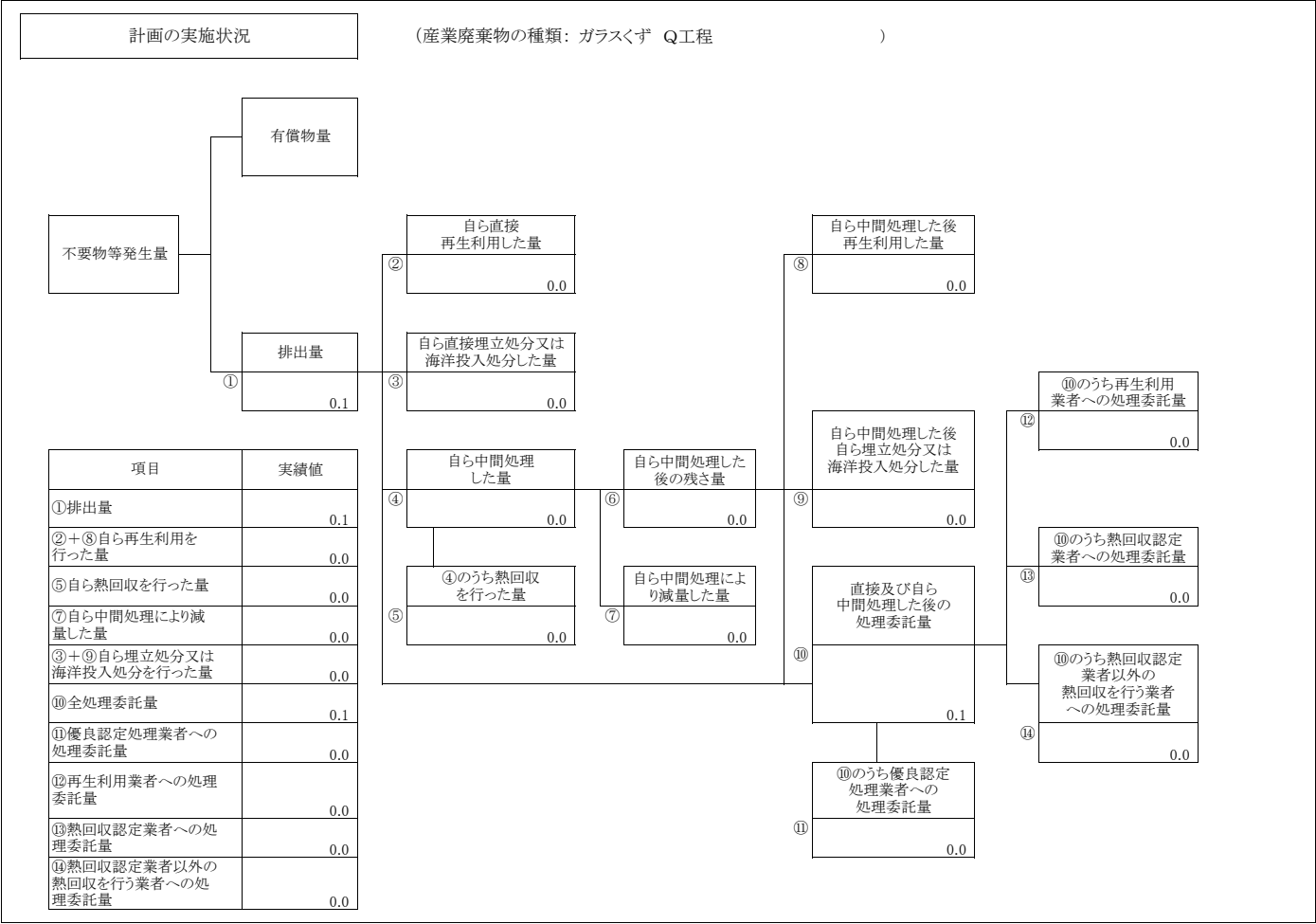












備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄には、何も記入しないこと。

産業廃棄物処理計画実施状況報告書の【別紙】

送 出 者						
住 所	名 称	担当部署	担当書名	電話番号	FAX	電子メールアドレス
産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する又はその一部	産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する又はその一部	報告担当部署の名称	報告担当者の氏名	報告担当部署の電話番号	報告担当部署のFAX番号	報告担当部署の電子メールアドレス
堺市堺区松崎3丁目7番地	株式会社 シマノ	総務課				

産業廃棄物の種類		計 画 の 実 施 状 況										(※＝①-②-③-④+⑤-⑥-⑦＝⑧+⑨+⑩+⑪+⑫)							⑭+⑮ 自ら再々利用 を行った量⑬	⑯+⑰ 自ら再々利用 を行った量⑬
		①排出量	②自ら直接 再々利用した量	③自己直接埋立 処分又は海洋投 入処分した量④	⑤自ら中間処理した量	⑥⑤のうち、自 ら中間処理した 後の残存量	⑦⑤のうち、自 ら中間処理した 後の残存量	⑧⑤のうち、自 ら中間処理した 後の残存量	⑨⑤のうち、自 ら中間処理した 後の残存量	⑩⑤のうち、自 ら中間処理した 後の残存量	⑪⑤のうち、自 ら中間処理した 後の残存量	⑫⑤のうち、自 ら中間処理した 後の残存量	⑬⑤のうち、自 ら中間処理した 後の残存量	⑭⑤のうち、自 ら中間処理した 後の残存量	⑮⑤のうち、自 ら中間処理した 後の残存量					
コード	名 称	①	②	③	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮					
産業廃棄物の種類	発生した産業廃棄物の種類ごとの量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量	①の量のうち、中間処理せず再々利用から再々利用した量					
0220	脱水利泥 A工程	205.8																		
0200	汚泥 B工程	82.8																		
0200	汚泥 C工程	16.6																		
0200	汚泥 D工程	45.2																		
0311	炭油 E工程	158.1																		
0500	炭アルカリ F工程	8.9																		
0500	炭アルカリ G工程	34.2																		
0600	炭プラ H工程	193.5																		
3108	炭電気機械器具 I工程	0.5																		
3111	ガラスくず J工程	0.3																		
3500	金属くず K工程	2.0																		
0800	木屑 L工程	90.1																		
0200	汚泥 M工程	1.3																		
0500	炭アルカリ N工程	5.1																		
0500	炭アルカリ O工程	0.5																		
0200	汚泥 P工程	0.2																		
0311	ガラスくず Q工程	0.1																		
⑭																				
⑮																				
⑯																				
合計		845.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					

(注1)トン単価は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。
(注2)上記の産業廃棄物の種類以外の排出実績があった場合は、必要に応じ、直接追加入力するとともに、第2面も追加してください。